

第1回 リスナー参加型

天下一学問会

高校レベル

講評

政治経済

作問者：いーんちょ

問題数：大問1問

記述式

解答時間：45分

高校政治経済・講評

採点結果

選択者： 5名（金：2名、銀：1名、銅：0名）

平均点： 59.4点

最高点： 96点

全体コメント

選択者が少なく、得点の上下層がきれいに分かれていた。空欄をどれだけ正しく埋められるかが全体の成績にも大きく影響していた。

個別問題

問1. (ア) 正答率はおよそ50%であった。90年代初頭の日本の状況であればもっと正答率が高くなつたかもしれない。(イ) 正答率はおよそ50%であった。出題的に発生年よりもきっかけとなった事件名を問う方が良かったかもしれない。(ウ) 正答率はやや高めであった。デフレの回答もあったが、インフレとデフレの関係は正しく押さえておきたい。(エ) 正答率はやや低めであった。日本が太平洋戦争に突入した1941年に対して、どうしても欧州での出来事は印象に残りにくい（これは逆もしかりである）。(オ) 正答率はやや高めであった。政治経済と言うよりも世界史に近い問題となってしまった点は出題者の改善点だと思う。

問2. 全員正解であった。もはやGDPに対するGNPは完全に置き換わったと言えるであろう（もしかすると知らない人も多いかもしれない）。

問3. 正解率はやや低めであった。単語そのものは中学の歴史でも登場する。なお回答の一つにニューデリー政策があった。ニューデリーはインドの首都であり、アメリカが採用した経済刺激策はニューディール政策である。

問4. 正答率は低かった。紙幣の増刷は問題文中のような賠償金支払いによるイメージが強いものの、時事問題として現代日本でも実施されていた点は強調しておきたい。

問5. 正答率はとても高かった。これも中学歴史で登場するが、こちらの方が記憶に残りやすいものもあるだろう。

問6. 正答率は高めであった。社会主義国家の採用した計画経済の概念は知っていても、それが世界恐慌の影響を受けなかった点を答えるにはやや考察が必要となる。それにもかかわらず正答率が高かったことから、回答者の理解が深かったものと感じている。